

神奈川県スポーツ賞

●水泳●

ひらい みずき

平井 瑞希 (17歳)



今年8月に佐賀県・SAGAサンライズパークSAGAアクア等で行われた全国高等学校総合体育大会（インターハイ）水泳競技「女子100mバタフライ」において、大会新記録をマークし優勝。大会2連覇を達成した。

同大会では、「女子100m自由形」でも優勝、最終日に行われた「女子4×100mメドレーリレー」でも優勝し、同種目は大会3連覇、同大会では3冠を達成するなど大活躍を見せた。

4歳から水泳を始め、小学校3年生の時に初めて全国大会に出場した。その後も数々の大会で活躍し、着実に実力をつけていった。

愛知県出身で、高校進学を機に神奈川県に移住、競泳の強豪校である日本大学藤沢高等学校に入学した。

2022年に世界ジュニア選手権「女子100mバタフライ」「女子400mメドレーリレー」で金メダルを獲得。2023年には世界ジュニア選手権「女子50mバタフライ」「女子100mバタフライ」で銅メダルを獲得。

パリ2024オリンピック競技大会代表選考会では、「女子100mバタフライ」で五輪派遣標準記録を突破して優勝。初の五輪代表に内定した。

パリ2024オリンピック競技大会「女子100mバタフライ」では、決勝に進出。見事7位入賞するなど、まさに世代を代表する選手であり、今後の活躍が大いに期待される。

日本大学藤沢高等学校3年生
[藤沢市]



神奈川県スポーツ賞

●水泳●

国民スポーツ大会水泳競技少年女子A 4×100mメドレーリレー神奈川県チーム

第78回国民スポーツ大会水泳競技少年女子A 4×100mメドレーリレーにおいて優勝し、第77回国民体育大会及び特別国民体育大会に続き、3年連続優勝を果たした。

第1泳者の山本千晶選手（日本大学藤沢高等学校）が背泳ぎで1分00秒88を記録し首位発進すると、第2泳者の石川結菜選手（日本大学藤沢高等学校）が平泳ぎで1分09秒73、第3泳者の平井瑞希選手（日本大学藤沢高等学校）がバタフライで56秒40、アンカーの首藤優里選手（湘南工科大学附属高等学校）が自由形で56秒47を記録し、4人の合計タイム4分03秒48で優勝した。

前回の鹿児島で行われた特別国民体育大会で記録した4分03秒18には届かなかったが、各選手とも国内外の大会等で活躍しており期待がかかる中、見事に実力を発揮し優勝を手にした。

神奈川県チームの世界を舞台とした活躍が今後も大いに期待される。

神奈川県スポーツ賞

●バレーボール●

なかた みお

中田 美緒 (23 歳)



デフバレーボール世界選手権 2024 沖縄豊見城大会に日本代表選手として出場し、日本チーム初となる金メダルを獲得、ベストセッター賞を受賞した。

葉山町出身。神奈川県立平塚ろう学校、東海大学を卒業。生まれつき聴覚に障害があったが、小学1年生から中学1年生の途中までの7年間は地域のサッカークラブに所属。家族がバレーボールをやっていたことなどがきっかけで、中学1年生の時に平塚ろう学校のバレーボール部に入部し、競技を始めた。

15歳で初めて日本代表に選出され、2016年の世界選手権でベストサーバー賞を受賞、翌年のトルコ・サムスンで行われた第23回夏季デフリンピック競技大会サムスン2017ではチーム最年少ながら17年ぶりとなる金メダル獲得に貢献した。より成長したいという思いから、強豪の東海大学に進学し、バレー部に入部。2021年・2022年と全日本バレーボール大学女子選手権大会の連覇を果たした。現在は、第1回大会から100年目を迎える2025年に東京で開催されるデフリンピックでの金メダル獲得に向けて日々努力を重ねている。

自身にとって2回目の出場となった世界選手権 2024 沖縄豊見城大会で、日本の金メダル獲得に貢献。金メダル獲得は日本デフバレーボール男女を通じて初の快挙となった。

デフバレーボール界を代表する存在として、今後の更なる活躍が期待される。

[横浜市]



神奈川県スポーツ賞

●硬式野球●

三菱重工 East 硬式野球部

第95回都市対抗野球大会において、初優勝の栄冠を勝ち取った。

三菱重工 East 硬式野球部（横浜市）は、三菱重工硬式野球部「広島」、「神戸・高砂」、「名古屋」、「横浜」が再編・統合され、誕生したチームである。チーム発足から4年目で悲願の優勝を達成、栄えある黒獅子旗を手にした。

今季、「“フェアプレー” “チャレンジ” “ビクトリー” ～正真正銘のトップアスリートからなる常勝チーム～」というスローガンを掲げ、チーム一丸となり戦ってきた。

1回戦から準決勝までは充実した投手陣で2点以内に抑え、決勝まで勝ち上がってきた。決勝では、JR東日本東北（仙台市）を相手に、初回、キャプテンで1番の矢野選手が先頭打者ホームランを打って先制、3回にも矢野選手が2打席連続のソロホームランを打って追加点を奪った。このあと1点差に迫られたが、5回に矢野選手がこの試合3打点目となるタイムリーヒットを打ってリードを広げた。

投げては、先発大野選手が好投し試合を作ると、畠中選手、長島選手、本間選手と継投、決勝戦でも1点に抑え、盤石の投手陣を披露した。

今後、さらなる常勝チームを目指し、第96回大会で都市対抗野球大会連覇を目指す。

[横浜市]



©Fujitsu

神奈川スポーツ賞

●アメリカンフットボール●

富士通フロンティアーズ

アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第77回「ライスボウル」で、3年連続8回目の優勝を果たした。

富士通フロンティアーズは、1984年に富士通グループのアメリカンフットボール経験者が集まり、同好会として発足し、翌1985年3月「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本アメフト界の開拓者となることを誓い「FRONTIERS」として正式にスタートした。

2014年に日本選手権「ライスボウル」で初優勝を果たし、2016年から2019年までの「ライスボウル」で4連覇、さらに2021年から2023年にかけて3連覇を達成した。

人気と実力の両面でXリーグを代表するチームに成長した富士通フロンティアーズは、今シーズン9回目の日本一を目指す。

また本拠地である川崎市の「かわさきスポーツパートナー」として、地域貢献活動にも率先して取り組み、地域を盛り上げるべく挑み続けている。

[川崎市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●スケートボード●

よしざわ ここ

吉沢 恋 (15歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会のスケートボード競技の女子ストリートにおいて金メダルを獲得した。

相模原市出身で、現在、市立小山中学校に通う中学3年生である。

スケートボードは兄の影響で7歳の時から始めた。市内にある小山公園が近所であり、通うようになった。最初はけがをすることが怖く、スケートボードが嫌いだったが、次第に友達と滑ることが楽しくなった。東京 2020 オリンピック競技大会での日本人選手の金メダルに影響を受け、大会に出場するようになった。

2021年の日本スケート選手権で5位、2022年の日本オープンで8位、2023年からは世界に進出し、東京で行われたストリート世界選手権では5位入賞を果たした。2024年から徐々に世界ランキングを上げ、パリ 2024 オリンピック競技大会予選シリーズの上海大会において3位、続くブダペスト大会で優勝し、オリンピック出場を決めた。

パリ 2024 オリンピック競技大会では予選を1位で通過し、迎えた決勝では、日本人選手が大技を決める中、「ベストトリック」の4回目、5回目で高得点を出し、逆転で金メダルを獲得した。

4年後のロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる高みを目指す。

[相模原市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●ブレイキン●

ゆあさ

あみ

湯浅 亜実 (25歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会のブレイキン競技のBガールにおいて金メダルを獲得した。

6歳の時、姉の影響でダンスを始め、10歳の時ブレイキンに出会った。初めて見たウィンドミルという技に心を震わせられ、スクールに通いながら、夢中になって毎日のように練習していた。

学生時代、ブレイキンが盛んな「聖地」川崎市の溝の口に通い、仲間と夜遅くまで練習し、技術を身につけていった。

2018年にRed Bull BC One B-girl部門で優勝すると、2019年にはWDSF世界ブレイキン選手権で優勝、初代女王となった。2023年にRed Bull BC Oneで再び優勝するなど、世界大会での実績を積み重ねた。

パリ 2024 オリンピック競技大会決勝では、持ち味の流れるようなダンスを披露し、金メダルを獲得。川崎市溝の口で腕を磨いたダンサーが、初代王者となり歴史に名を刻んだ。

今回のパリ 2024 オリンピック競技大会で、新種目として注目を集めた「ブレイキン」。今後もさらなる活躍に期待が集まる。

[川崎市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●体操●

すぎの たかあき

杉野 正堯 (26歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会の体操競技にて団体総合で金メダル、あん馬で6位、鉄棒7位入賞を果たした。

6歳の時に兄弟の影響で体操を始めた。大学時代に2017年、2019年の全日本体操種目別選手権のあん馬で優勝を果たした。

2021年から鎌倉市に所在する徳洲会体操クラブに入部。鎌倉市笛田にある「徳洲会ジムナスティクスアリーナ」を練習拠点に活動している。

2022年から同クラブの主将を務め、体操ジャパンオープン2022では、個人総合で優勝、団体総合で準優勝を果たした。

パリ 2024 オリンピック競技大会では、橋本大輝選手、萱和磨選手、岡慎之助選手、谷川航選手とともに男子団体総合で金メダルを獲得。逆転勝利を呼び込む演技で、団体総合の金メダルに貢献した。

ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる活躍が期待される。

[鎌倉市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●体操●

おか しんのすけ

岡 慎之助 (21 歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会の体操競技で団体総合、個人総合、鉄棒で金メダル、平行棒で銅メダルを獲得した。

幼稚園の先生に逆上りを褒められ、4歳から体操を始めた。ジュニア時代から頭角を現し、国内外の大会で活躍した。高校1年生で、鎌倉市に所在する徳洲会体操クラブに入部。鎌倉市笛田にある「徳洲会ジムナスティックスアリーナ」を練習拠点に活動を始める。

2019年世界ジュニア体操競技選手権に出場し、団体総合と個人総合で金メダル、種目別ではあん馬で銀メダル、平行棒で銅メダルを獲得した。2022年に大怪我を負ったが、厳しいリハビリを乗り越え、2024年のNHK杯で優勝、男子代表メンバー最年少の20歳で念願のオリンピック初出場を決めた。

パリ 2024 オリンピック競技大会では、橋本大輝選手、萱和磨選手、杉野正堯選手、谷川航選手とともに男子団体総合で劇的な逆転で金メダルを獲得。個人でも個人総合、鉄棒で金メダル、平行棒で銅メダルを獲得。合わせて4つのメダルを手にし、圧巻のオリンピックデビューを飾った。

[鎌倉市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●セーリング●

おかだ けいじゅ

岡田 奎樹 (28 歳)



©JSAF

パリ 2024 オリンピック競技大会にてセーリング競技の男女混合ディンギー種目 470 級で銀メダルを獲得した。

5 歳の時に家族の影響でセーリングを始め、全日本OP級選手権大会にて小学校の部で優勝、その後も中学、高校時代と世界で優秀な成績を収めてきた。

大学時代には、470 級ジュニア世界選手権において、木村直矢選手とペアを組み、日本人初の同クラス優勝を果たした。

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技が江の島で行われることから、就職を機に神奈川県に移住、江の島を拠点にトレーニングをするようになった。外菌潤平選手と組んだ男子 470 級では、オリンピック初出場ながら 7 位入賞を果たした。

2021 年秋から女子 470 級の吉岡美帆選手とペアを組み、2021 年の全日本 470 級選手権、2023 年の世界選手権混合 470 級で優勝を果たした。

パリ 2024 オリンピック競技大会では、上位 10 艇で争う最終レースで 3 位に入り、逆転で総合 2 位に。日本勢では 2004 年のアテネ大会以来、20 年ぶりとなる銀メダルを獲得し、セーリングの歴史に新たな一ページを刻んだ。

今後、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる活躍が期待される。

[鎌倉市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●セーリング●

よしおか

みほ

吉岡 美帆 (34 歳)



©JSAF

パリ 2024 オリンピック競技大会にてセーリング競技の男女混合ディンギー種目 470 級で銀メダルを獲得した。

中学時代はバレーボール部に所属していたが、高校からセーリングに転向。その後、大学の全日本インカレに参加。2013 年に、北京、ロンドンとオリンピック 2 大会に出場している吉田愛選手とペアを組む。

リオデジャネイロ 2016 オリンピック競技大会にセーリング 470 級日本代表として出場し 5 位入賞を果たし、2 年後の 2018 年セーリング世界選手権大会 470 級で見事、日本人初の優勝に輝いた。

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技が行われた神奈川県の江の島が活動の拠点。同大会では、女子 470 級で 7 位入賞を果たした。

2021 年秋から男子 470 級の岡田奎樹選手とペアを組み、2021 年の全日本 470 級選手権、2023 年の世界選手権混合 470 級で優勝を果たした。

3 回目のオリンピックとなるパリ 2024 オリンピック競技大会では、上位 10 艇で争う最終レースで 3 位に入り、逆転で総合 2 位に。日本勢では 2004 年のアテネ大会以来、20 年ぶりとなる銀メダルを獲得し、セーリングの歴史に新たな一ページを刻んだ。

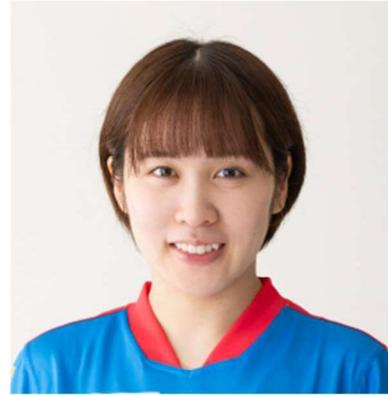
[藤沢市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●卓球●

ひらの みう

平野 美宇 (24歳)



©KINOSHITA ABYELL KANAGAWA

パリ 2024 オリンピック競技大会の卓球競技において女子団体で銀メダルを獲得した。

家族の影響で3歳から卓球を始めた。小学1年生で出場した全日本選手権バンビの部の女子シングルスにおいて優勝し、ジュニア時代から将来有望な選手として注目を集めた。

小学生時代から国際大会に出場し経験を積み重ねたが、リオデジャネイロ 2016 オリンピック競技大会では代表から漏れてリザーブメンバーという悔しさを味わった。

そこから大きくプレースタイルを変え、2016年に開催された卓球の女子ワールドカップシングルスで史上最年少の16歳で日本勢初となる優勝を飾った。

初出場となった東京 2020 オリンピック競技大会では、石川佳純選手、伊藤美誠選手と女子団体に出場し、銀メダルを獲得した。

2022年から川崎市に所在する「木下アビエル神奈川」に所属し、長年チームをけん引してきた石川佳純選手が引退したことにより、新たにキャプテンを引き継いだ。

2度目のオリンピックとなったパリ 2024 オリンピック競技大会では、早田ひな選手、張本美和選手とともに女子団体に出場し、中国との決戦に臨んだが、惜しくも敗れ、銀メダルを獲得した。

今後、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる活躍が期待される。

[川崎市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●卓球●

はりもと みわ

張本 美和 (16歳)



©KINOSHITA ABYELL KANAGAWA

パリ 2024 オリンピック競技大会の卓球競技において女子団体で銀メダルを獲得した。

家族の影響で2歳から卓球を始めた。「スーパー小学生」として、全日本卓球選手権大会では4大会連続で表彰台に上がるなど、小学生の頃から将来を嘱望される存在であった。

中学1年生の時、川崎市に所在する「木下卓球アカデミー」への所属を機に、川崎市に転居した。その後、川崎市立川中島中学校に入学し、1年生の時、全国中学校卓球大会の女子シングルスにて初優勝し、中学日本一になった。さらに3年生の時も同大会で優勝を飾った。

また、全日本卓球選手権では2023年、2024年とジュニア女子シングルスで優勝し、史上7人目の2連覇を達成した。

初めてのオリンピックとなったパリ 2024 オリンピック競技大会では、早田ひな選手、平野美宇選手とともに女子団体に出場し、迎えた決勝では、日本は中国に敗れたが、銀メダルを獲得した。

今後、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる活躍が期待される。

[川崎市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●柔道●

むらお さんしろう

村尾 三四郎 (24 歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会の柔道競技において、男子 90kg 級で銀メダル、混合団体でも銀メダルを獲得した。

姉の影響で 5 歳から柔道を始めた。桐蔭学園高等学校に入学し、高校 1 年生の時、全国高等学校柔道選手権で、高校 2 年生の時、全国高等学校総合体育大会柔道競技大会で、それぞれチームの優勝に貢献。高校 3 年生では、大学生や社会人も出場する講道館杯で高校生ながら 3 位となり、早くから将来を嘱望される存在であった。

東海大学進学後もさらに力をつけ、2019 年、2020 年の講道館杯で 2 連覇、2021 年以降、グランドスラムやアジア選手権で優勝を積み重ねるなど。着実に国際大会で結果を出し、パリ 2024 オリンピック競技大会に向けて自身を磨き上げてきた。

パリ 2024 オリンピック競技大会では、小さい時から憧れていたオリンピックの舞台で持ち味を発揮し、決勝まで進んだ。決勝では惜しくも敗れたが、初出場ながら銀メダルを獲得した。

4 年後のロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向けて、さらなる活躍が期待される。

[秦野市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●柔道●

はしもと そういち

橋本 壮市 (33歳)



パリ 2024 オリンピック競技大会の柔道競技において、男子 73kg 級で銅メダル、混合団体で銀メダルを獲得した。

東海大学付属相模中学校から東海大学付属相模高等学校に進学。高校 3 年生の時、全国高等学校総合体育大会柔道競技で個人、団体ともに優勝、二冠を達成した。

また、国民体育大会（現在の国民スポーツ大会）少年男子の部で、神奈川県チームとして出場、優勝に貢献している。

東海大学卒業後、2014 年からパーク 2 4 株式会社に所属。多くの世界大会に出場し、ワールドマスターズでは優勝 4 回、グランドスラムでは優勝 6 回と、実績を積み重ねた。

パリ 2024 オリンピック競技大会では、得意技の変形の袖釣込腰「橋本スペシャル」を繰り出し、準々決勝に進出。惜しくも、準々決勝で敗れたが、敗者復活戦を勝ち上がって銅メダルを獲得した。

[非公表]

神奈川県スポーツ賞・パラリンピック賞

●ゴールボール●

とりに はるき

鳥居 陽生 (20歳)



写真提供：日本ゴールボール協会

パリ 2024 パラリンピック競技大会、ゴールボール男子の日本代表選手として出場し、金メダルを獲得した。

小田原市出身。甲子園を目指して野球に打ち込んでいた高校1年秋に、難病「レーベル遺伝性視神経症（レーベル病）」を発症し、選手を続けることを断念したが、高校卒業まで野球部に在籍し、野球で培った体力や技術の維持のためトレーニングを続けていた。高校2年生の時に、リハビリを通じて出会ったゴールボールに衝撃を受けたことをきっかけに競技を開始した。翌年にはトップアスリート発掘事業（J-STAR プロジェクト）に応募し選抜され、2023年には日本ゴールボール協会の強化指定選手に選出された。

杭州 2022 アジアパラ選手権大会では、19歳ながら初の代表入りを果たし、同大会過去最高の成績となる準優勝に貢献した。

自身にとって初めてのパラリンピック出場となったパリ 2024 パラリンピック競技大会では、チーム最年少で日本の金メダル獲得に貢献。日本ゴールボール男子史上初の快挙となった。

4年後の 2028 年ロサンゼルスパラリンピック競技大会に向けて、今後の更なる活躍が期待される。

[小田原市]

神奈川スポーツ賞・パラリンピック賞

●ゴールボール●

はぎわら なおき

萩原 直輝 (28歳)



写真提供：日本ゴールボール協会

パリ 2024 パラリンピック競技大会、ゴールボール男子の日本代表選手として出場し、金メダルを獲得した。

東京都出身。中学、高校時代は硬式テニス部に所属し、スポーツに親しむ。専門学校在学中の18歳で難病「レーベル遺伝性視神経症（レーベル病）」を発症。主治医の紹介でゴールボールに出会い、同じ疾患の選手に誘われたことがきっかけで19歳から競技を開始した。徐々に頭角を現し、競技開始から3年目の2019年に日本ゴールボール協会の強化指定選手に選出され、程なくしてポジションをウイングからセンターに変更した。

2019年チャイナオープン3位、Goalball Nations Cup 準優勝などメダル獲得に貢献した。

自身にとって初めてのパラリンピック出場となったパリ 2024 パラリンピック競技大会では、決勝にも出場し、日本の金メダル獲得に貢献。日本ゴールボール男子史上初の快挙となった。

4年後の2028年ロサンゼルスパラリンピック競技大会に向けて、今後の更なる活躍が期待される。

[相模原市]